

訪問リハの魅力

2023年6月入社 作業療法士 Hさん

私は以前回復期リハビリテーション病棟で勤務しており、自宅へ戻られる方々の退院支援を多く行っていました。実際に退院された方々が自宅でどのように生活されているのかが気になり、訪問リハに興味を持つようになりました。回復期病棟で5年間勤務した後、セコム訪問看護ステーションに入社しました。

訪問でのリハは初めてで不安も多くありましたが、同僚セラピストや看護師に助けてもらいながら、一つひとつ進めていくことができました。

訪問リハを始めてからまだ数年ですが、病院でのリハとは違った魅力がたくさんあると感じています。

ひとつは、自宅での生活の“リアル”を見られることです。そして、それに対する支援も、より自宅生活に即したものになります。生活動作や生活環境において、「こういう方法の方が良いのでは？」「この物の位置はこっちの方が使いやすいかも」と考えることが多々あります。もちろん、リハで練習したり環境を調整したりすることもあります。中にはこだわりを持っている方もいらっしゃいます。そこには、これまでの生活の歴史や様々な思いが詰まっています。そうした背景に触れながら、自宅での生活を支援していくことに、とても魅力を感じています。

あるご利用者は、亡くなった奥様が使っていた歩行器を使用されていました。その方の体格を考えると適切なものではありません

でしたが、ご本人にとっては、その歩行器を使うことに大きな意味がありました。セラピストとしては、つい適切な物を選びたくなりますが、そうではない“正解”もあるのだと気づかされたケースでした。病院ではなかなか経験できない、訪問ならではの出来事だったと思います。

また、地域とのつながりの中で働けることも、訪問の魅力のひとつだと思います。同じステーションの看護師だけでなく、地域のケアマネジャーや福祉用具業者の方々とも連携しながら、チームで支援を行っていきます。顔を覚えてもらいながら、一緒に協力し合えることは、地域で働く一人としてとても嬉しく感じます。

少し余談になりますが、訪問での移動にも、ちょっとした魅力がたくさんあります。景色や街の風景から季節を感じたり、美味しそうなご飯屋さんを見つけたり。

初めは不安もありましたが、訪問リハで働くことができて、本当に良かったと感じています。

